
現代科学の神話返り

紅葉貴久弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現代科学の神話返り

【Nコード】

N6693Y

【作者名】

紅葉貴久弥

【あらすじ】

神話的科学時代

それは人間が科学的な力と天性の才の支えにより人間を超え、神に近づける禁忌の様な事が行われる時代だ。

主人公は圧倒的な天賦の才も本来あるべき科学の恩恵すらも授からなかったホームレスの少年だった。

ただ、少年には別の能力があった。

それは……

科学と神話、そして少年が織りなす物語の始まりだ。

序章 幕開け

いつの時代も科学とは繊細して、大胆なものだ。

何故そう言えるかというと、科学で説明できない事はいつしよくたに『怪奇現象』や『超常現象』で片付けてしまう。それなのに、説明できるところになると何百、いや何千、下手するとその遙か上の正確さで事実を求める。

だからこそ、このような時代ができたのかもしれない。

神話的科学時代

わけのわからないものだとは思うのも無理は無いだろう。

これは2012年の事だ。

突如として、そのときのだが現代常識では計り知れない事件が相次いだ。

海が枯渇し、砂漠が潤い、寒い地帯が暑くなったり、赤道付近が凍ったり……世界の破滅ではないかと言われた大事件だ。

しかし、それは違った。

その極度の気候変化こそ、新時代の幕開けだった。

その大事件は一日ですべて、“何事”もなかったかのように元へと戻った。

昔の常識ではありえない事で多くの研究者は頭を悩ました。

しかし、事実とはいかに奇である事をその時思い知ったのだった。

それは……

現代科学（今は昔の）では解決できない事象が人間に起き始めていた。

身体から火が出たり、身長が急に伸び始めたり、体格ががっしりし始め岩を砕けるようになったりe t c

とにかく、様々な事が起きた。

けれど、その謎もあっさり解決してしまう。

それはなんとも簡単で、なんとも奇妙で、なんとも神秘的だったのだ。

ある日、一人の少年が自衛隊の一団を潰した。陸自の歩兵をだ。総勢20人の大人が中学生程度の子供に倒された。

ありえない。普通なら。

でも、普通じゃないとしたら？人間じゃなかったとしたら？

神々の力を一種の先祖返りで持つ者たちだとしたら？

少年は捕えられ、研究された。

少年はごく普通の家庭に生まれ、普通の生活を送り、自衛隊との交戦の記憶なんてないと言いだめた。

しかし、研究者にとっては彼の体はとても興味深く、そそられるモノだった。

本来持つているはずのDNAに、突然変異の如き体の、特に内側の圧倒的な強さ。

それは元来人間がしますべき7割の力だった。それを無条件、とまではないが発現させた少年。ここまで面白いモルモット《・・・

・・》いや、サンプル《・・・》か？をみすみす逃すわけもなく、少年にとっては苛酷な時間を、研究者たちには至高の時間となった。だが、人間、特に少年の様な上手く力を扱えない者を刺激しすぎるとどうなるか、彼らは知らなかった。

示す先は能力の暴走。そして、皆殺しの結末。それが

神話的科学時代の幕開けと言われたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6693y/>

現代科学の神話返り

2011年11月20日16時41分発行